

2 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標の達成度
(今期事業達成目標)

プロジェクト目標「ムキンガ郡の対象地域住民の安全な水へのアクセスと食料の多様性が向上する」

安全な水にアクセスできる対象地域住民は目標値 80%を上回る 82% (2023 年エンドライン値)、多様な食料を生産している世帯の割合は目標値 35%を上回る 42% (2023 年エンドライン値) に達したことより、プロジェクト目標を達成したと判断する。また、多様な食物を消費している世帯の割合は 32% (2020 年ベースライン値) から 51% (2023 年エンドライン値) に増加し、子どもの栄養不良に改善がみられるなど、上位目標「ムキンガ郡の事業対象地域の住民と子どもの持続的な栄養改善」についても成果が現れ始めている。

(3 年次目標) 2 つの村の給水パイプの延伸を行い、対象の村における住民の安全な水へのアクセスが改善し、多様な食料 (農産物、水産物を含む) の生産、摂取ができていない世帯の割合が増加する。

1 つの村での給水システム建設は中止せざるを得なかったが、同村でも政府による建設が行われ、2 つの村の住民の安全な水へのアクセスと食料の多様性が向上した。

(2) 活動内容

1. 安全な水へのアクセスが改善される

1.3 Parunga Kasera 村のダムから Manza 村へ給水システムの延伸計画していた建設が政府により実施されることとなったため、事業変更承認申請第 1 号により中止した。

1.4 Mwakikoya 村の水供給システムの建設

計画通り以下施設の建設を完了し、Mwakikoya 村の水供給システムを構築した。これにより、Mwakikoya 村の人口 1124 人が安全な水にアクセスすることができるようになった。また、本事業で敷設した給水パイプを活用し、郡政府が村内の小学校など 4 か所に給水ポイントを増設することもできている。

水処理施設	ポンプ/ソーラーパネル	ポンプ小屋	貯水タンク	給水パイプ	給水ポイント	家畜水飲み場
○	○	既存の小屋の窓とドアを改修	○	○	1	○

2. コミュニティと地方政府の水管理能力と衛生の知識が強化される

2.1 6 つの村の水管理委員会の能力強化

2 年目に設置した 3 村 (Mwakikoya 村、Parunga Kasera 村、Manza 村) の水管理委員会へのリフレッシャー研修を、2022 年 8 月に 22 名に対して行った。研修はタンザニア政府が策定した水管理委員会のための研修マニュアルに従って行われ、参加者は水供給システムの管理、集金方法と会計管理、委員会の経営と中期的な視点に立った備品の調達などについて学んだ。研修後、水管理委員会の運営がうまくいっている Pangani のグループの視察も行い、料金徴収の仕方、設備のメンテナンス方法などの実践的な知識を学んだ。

2.2 事業 2 年次の活動のため 3 年次は活動なし。

2.3 コミュニティリーダーに対する水衛生に関する課題の研修

2022 年 6 月、2 年目に新たに研修を受けた 3 村のコミュニティリーダー 11 名を対象に、リフレッシャー研修を実施した。研修ではコミュニティリーダーとして衛生啓発活動を実施することの重要性を再確認し、各村での衛生コミュニティ行動計画を作成した。活動の結果、住民の手洗い習慣は 71% (2020 年ベースライン値) から 94% (2022 年エ

ンドライン値)に増加、トイレのある世帯は73%(内改善されたトイレは26%、2020年ベースライン値)から83%(内改善されたトイレは38%、2022年エンドライン値)に増加した。

2.4 地方政府との調整委員会の設置

2022年10月および2023年1月に、政府関係者および水管理委員会の代表者による会議を実施し、それぞれ40名と25名が参加した。10月の会議では事業の進捗を共有するとともに、Pangani視察の振り返り、日本人専門家からの提言への対応状況、各水管理委員会の年間運営計画について発表と議論を行った。2023年1月の会議では、主に事業終了後の計画について話し合い、村落給水衛生局(Rural Water Supply and Sanitation Agency)のサポートのもと定期的な年間計画の見直しを行う必要性を関係者間で確認し、オーナーシップ醸成と事業の持続性向上に寄与した。

3. 世帯の食料多様性が向上する

3.1~3.6 事業1、2年次の活動のため3年次はモニタリングのみ実施した。モニタリングより、1、2年次に普及を行ったオレンジサツマイモを一部農家グループが育苗し、他の農家に販売を行っており、徐々にオレンジサツマイモの栽培が広まっていることが確認された。また、1、2年次に魚の養殖を行ったグループでは、販売した魚の売上が新しい稚魚購入のために貯蓄されていることが確認された。2023年3月時点でのグループの状況は以下のとおり。

	グループの数	3年目に稚魚／苗を購入したグループの数
魚養殖	18	6
農業	12	8

※2023年3月時点で、5つの農家グループから約318kg分のオレンジサツマイモ、3つの魚養殖グループから計約1,078匹の魚が収穫され、販売された。

※3年次は、多くのグループで雨不足のため稚魚や苗の購入が控えられていた。事業終了後も、政府とWVの自己資金プログラムにより、6月の雨季に備えて支援を行っている。

3.7 栄養サポートグループの形成と支援

2022年6月に計58名の栄養サポートグループメンバーに対して研修(計2回)を実施した。参加者は、幼児や子どものために栄養価の高い食事の作り方や、各家庭へ食事内容を指導する方法について学んだ。

3.8 販売する農産物の市場調査に関する研修

魚養殖およびオレンジサツマイモの栽培を行っている6村のグループの代表者計141名に対して、2022年7月にリフレッシュ研修(計2回)を行った。各農家が農産物を適正価格で販売できるよう、市場調査の方法、卸売業者や食品加工業者などステークホルダーの分析方法を指導するとともに、実際に市場を訪問する実地研修を行った。実地研修により農家が小売業者や買い付け業者とつながりを持ち、市場の実情を知ることができた。

➤ 2022年8月に東洋大学国際共生社会研究センターから日本人専門家を派遣し、事業地の状況を視察後、水管理委員会の持続性や適切な水の使用に関する助言を受けた。また、日本国大使館、専門家、WV、村落給水衛生局(Rural Water Supply and

	Sanitation Agency) の 4 者での会議を開催し、今後の村落給水の改善に関して協議を行った。 ➤ 2023 年 2 月 3 日には、政府、大使館、コミュニティから約 200 名が参加し、事業終了会議を実施した。
(3) 達成された成果	<u>成果 1：より多くの世帯が、安全な水にアクセスできるようになる。</u> 指標 1-1：機能している給水システムの数 - 開始時：0 か所 - 目標値： - 機能している給水ポンプ 3 つ - 給水タンク 4 つ - 水処理施設 4 つ - 給水ポイント 16 か所 - 終了時： - 機能している給水ポンプ 3 つ - 給水タンク 4 つ - 水処理施設 3 つ - 給水ポイント 7 か所 ※事業変更承認 1 号により活動 1. 3Manza 村の給水システムの延伸は中止としたため、終了時の値より除いているが、Manza 村においても政府による給水システムが建設されている。 指標 1-2：新しく給水システムが整備された 3 村（事業 3 年目は 1 村）において、給水ポイントから安全な水に日中アクセスできる人が、対象村の人口の 8 割を超える（事業 3 年目：1,124 人） - 開始時：0 人 - 目標値：5,000 人（対象 3 村の全人口 6,098 人の 8 割） - 終了時：5,000 人（対象 3 村の全人口 6,098 人の 8 割以上） ※エンドライン調査の結果、対象村の世帯の 82.4%が安全な水にアクセスできていることが確認された。 <u>成果 2：コミュニティと地方政府の給水システムを維持管理能力が強化されている。</u> 指標 2-1：長期的な収支バランスを元に給水システムの維持管理費を試算し、それを根拠として運営計画（含む使用料金）を策定している水管理委員会の数（各村 1 グループ、合計 6 グループ） - 開始時：0 - 目標値：6 - 終了時：6 ※エンドライン調査の結果、全ての水管理委員会において会計担当が置かれ、各月の収支が適切に記録されていることが確認された。また各委員会で中長期の収支見通しをもとに、新しい給水ポイントの設置や大規模修繕などの計画が立てられている。 指標 2-2：徴収した使用料金の積立状況が、住民が長期的に負担すべきコストをカバーできる水準に達している水管理委員会の数（各村 1 グループ、合計 6 グループ） - 開始時：0 - 目標値：6 - 終了時：6 ※各グループの積立状況は以下のとおり（2022 年 12 月時点）

	<table><tr><th>村</th><th>年間収入(Tsh)</th><th>支出 (Tsh)</th><th>積立額 (Tsh)</th></tr><tr><td>Duga Maforoni</td><td>9,039,502</td><td>5,819,492</td><td>3,220,010</td></tr><tr><td>Mwakikoya</td><td>175,000</td><td>0</td><td>175,000</td></tr><tr><td>Doda-Kibiboni</td><td>9,607,000</td><td>6,053,000</td><td>3,554,000</td></tr><tr><td>Parungu Kasera</td><td>11,024,000</td><td>6,425,500</td><td>4,598,500</td></tr></table> 成果 3：世帯の食事の多様性が向上する 指標 3-1：多様な食料（農産物、水産物を含む）の生産¹を行っている世帯の割合 - 開始時：26.7% (WV 調査) - 目標値：35% - 終了時：56.2%（エンドライン調査） 指標 3-2：炭水化物や野菜、肉・魚、果物など 7 つの食品群の中から一日 4 種類以上を食事で摂取できている世帯の割合 - 開始時：32%（ベースライン調査） - 目標値：40% - 終了時：51%（エンドライン調査） 上記成果 3 の達成を通じ、SDGs の目標 2「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」の下記 2 つの目標の達成に寄与した。 2.1 2030 年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。 2.2 5 歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを 2025 年までに達成するなど、2030 年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。	村	年間収入(Tsh)	支出 (Tsh)	積立額 (Tsh)	Duga Maforoni	9,039,502	5,819,492	3,220,010	Mwakikoya	175,000	0	175,000	Doda-Kibiboni	9,607,000	6,053,000	3,554,000	Parungu Kasera	11,024,000	6,425,500	4,598,500
村	年間収入(Tsh)	支出 (Tsh)	積立額 (Tsh)																		
Duga Maforoni	9,039,502	5,819,492	3,220,010																		
Mwakikoya	175,000	0	175,000																		
Doda-Kibiboni	9,607,000	6,053,000	3,554,000																		
Parungu Kasera	11,024,000	6,425,500	4,598,500																		
(4) 持続発展性	● 給水システムの持続性 3 年間の事業を通じ、6 村の水管理委員会に対し、事業で建設された給水システムの設備を継続的に管理できるよう能力強化を行った。また、郡・州レベルの水局担当者と水管理委員会による調整委員会を開き、事業の進捗共有とともに、給水システムの持続性に対してのそれぞれの役割や計画を確認した。こうした取り組みにより、6 村の水管理委員会は長期的な計画にしたがって給水システムのメンテナンス費用を積立てており、それを村落給水衛生局がモニタリング・指導する関係性が構築されている。 ● 皿池の持続性 本事業では農家に対し魚養殖や栄養価の高い農産物の生産に関する研修と皿池の設置支援を行った。皿池は住民自身が掘ったため、オーナーシップが醸成されるとともに、維持管理も自ら行うことができるという点で持続性が高いと考えられる。また、農家は養殖した魚や収穫した農産物を販売することにより継続的に収入を向上し、収入により新たな稚魚や苗の購入や、ダムライナーの交換を行うことができるようになっている。																				

¹ 多様な食物の生産とは以下の 7 つの食品群から少なくとも 4 品目以上生産している状態を指す。7 つの食品群とは、1) 穀物・根菜・茎類、2) 豆類・ナッツ、3) 乳製品、4) 肉魚類、5) 卵、6) ビタミン A の多い野菜や果物、7) その他の野菜果物。

出典：Compendium of Indicators for Child Well-being, World Vision International, 2013.